

「 あなたが最後にハザードマップを見たのはいつですか 」

岐阜県 多治見市立笠原中学校 1年 河本 彩愛

私の住んでいる町、多治見市は自然豊かで素敵な町です。透き通った川に、たくさんの動植物、そして、季節によって色を変える山々、この慣れ親しんだ景色が土砂災害で見れなくなるかもしれないと思つたのは、ハザードマップを見た時でした。

「自分の家や通学路をハザードマップの中から探してみよう。」

私は、何の気なしに自分の家を探していました。幼い頃から暮らしてきた家の周りに、危険な場所があるだなんて、思ってもいなかったからです。だからこそ、自分の家を見つけた時、言葉を失いました。自分の家のすぐ後ろに土砂災害が起こる可能性がある危険な箇所があったのです。仮に、ここで土砂災害が起つたら、思い出が詰まった大切な家も、学校の帰りにお帰りと声をかけてくれる近所の人たちの家も、全部土砂と一緒に流されてしまうのです。それなのに私は、なんの対策もしていませんでした。土砂災害が起きたとき、どう避難すれば良いのか、事前に何を準備すれば良いのか、そんな事も知らずに、今まで生活してきたのです。ここでハザードマップを見ていなければ、私はこの事に気づかず、そのままずっと、危険と隣り合わせで生活していたんだとすると、身の毛がよだつ思いがしました。逆に、土砂災害が起こる前に、この危険に気づく事ができて良かったとも思いました。この危険に気付く事ができたからこそ、今から備える事ができるのです。

その備えとして、まず、家族に家の周りの危険箇所を知っているかを聞いてみました。すると、家族も知らなかったことが分かり、このことを話して良かったと思いました。家族と話し合ったことで安心感も得られ、危険意識が高まったことで、災害への備えができ土砂災害が起きたときでも、冷静な対応ができるようになると思ったからです。

そこで、次に私は、実際に避難所まで歩いてみることにしました。普段は何気なく通っている道も災害を意識して歩くと、少し違つて見えました。小さな段差があつたり、ところどころ凹凸があつたりして、焦って行動したり、夜などの暗い時間に避難したりすると、とても危ないと感じました。普段は気にしない道の段差も、暗いと見えにくく、転んだり、怪我をする可能性があります。私の近所には高齢者の方が多いので、避難するときには十分に注意してほしいと思いました。土砂災害が起きた時には、自分だけでなく周りの人の安全も考えながら、落ち着いて行動することが大切だと感じました。そのためには、避難の基本である押さない、走らない、喋らない、戻らないの、おはしもを意識することが大切だと気がつきました。そして、その後非常用のバッグも用意しました。避難所まで歩いたときに、夜や暗い時間に避難する可能性もあると思い、懐中電灯をバッグに入れました。さらに、水や簡単に食べられる食料や救急用品なども揃え、一つ一つ確認しながら準備を進めました。こうして備えを整えることで、万が一のときにも、落ち着いて行動できるようになると思いました。

最初に話した通り、土砂災害が起こると大切な思い出や場所も土砂と一緒に流されてしまいます。ですが、事前にハザードマップを確認して、避難所まで歩いてみたり、非常用のバッグを準備しておけば、命を守ることができます。いざというときには家族や近所の人たちと助け合って、支え合うことが大切です。

それでも、不安な気持ちが消えるわけではありません。でも、その不安を受け止めて、備えを重ねていくことで、自分や周りの人たちを守れる力に変えることができます。小さな積み重ねが、大切な人達、大切な命を守る大きな力になります。今まで、ハザードマップを確認したことがない人は、ぜひハザードマップを見て、身の回りの危険を知り、いざというとき、行動できるようになってほしいです。

少しでも多くの人が、ハザードマップを確認することの大切さや、重要性に気が付いて、危険意識を高め、事前に備えて土砂災害による被害が、少しでも小さくなることを願っています。改めて、あなたが最後にハザードマップを見たのはいつですか。